

医療安全トピックス TOPICS

Vol. 143

小沼 絵理

公益財団法人日本訪問看護財団
事業部

在宅における医療安全について 在宅酸素療法における事故報告から

本連載のVol.137(2022年4月号)でご報告のとおり、本年度からは訪問看護師の職能団体である日本訪問看護財団より在宅における医療安全について報告します。

在宅においては、医師の診療、訪問看護師による看護提供だけでなく、介護職員が実施可能な医療行為とはみなされない服薬介助などの行為、さらには療養者本人や家族による行為が、医療安全の対象となるのが特徴の1つです。

その中でも今回は、すべての対象がかかわる可能性のある在宅酸素療法関連の事故について取り上げます。これについては毎年のように注意喚起されていますが、根絶が難しい古くて新しい課題です。直近では、厚生労働省が2022年7月6日に在宅酸素療法に関する重篤な健康被害事例を公表しています^{★1}。

●在宅酸素療法とは

1. 在宅酸素療法の目的・対象

在宅酸素療法(Home Oxygen Therapy: HOT)は、慢性呼吸不全等の療養者が酸素を吸入しながら在宅療養や社会復帰をはかるための治療です。対象となる状態は、①高度慢性呼吸不全、②肺高血圧症、③チアノーゼ型先天性心疾患、④慢性心不全で、原疾患としては、慢性閉塞性肺疾患(COPD)が最も多く、全体の約45%を占めています^{★2}。

2. 在宅酸素療法の仕組み

HOTでは在宅療養者の自宅(居室)に設置した酸素供給装置(酸素濃縮器または液化酸素)を使用し、

酸素を発生させて治療を行います。現在、わが国では99%が酸素濃縮装置を使用しています^{★3}。なお、外出や災害時対応として電源不要な携帯用酸素ボンベ(液化酸素の場合は子器)を準備する必要があります。HOTを実施する療養者は毎月、主治医の診察を受け、酸素を処方してもらいますが、実際の酸素供給装置の設置やメンテナンスは酸素供給業者が行います(図表1)。

訪問看護では、HOTを実施している療養者に対し、病状観察や疾患の急性増悪の予防・早期発見、さらにHOTに関する知識・技術の説明や確認をしたり、日常生活の支援・リハビリテーションなどを行ったりしています。

●在宅酸素療法に関する事故

HOT関連の事故としては、歩行時の接続延長チューブなどにつまずいての転倒や、酸素切れなどがありますが、最も注意すべきは引火事故です。

酸素そのものは燃えませんが、物を燃やすのを助ける性質(支燃性)があるため、酸素供給装置および酸素吸入中の療養者から2メートル以内は火気厳禁です。具体的な対策としては、部屋の暖房は裸火の出る石油ストーブは避けてエアコンなどを利用する、調理の際はガスコンロではなくIHクッキング

★1 https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000003m15_1.html

★2 日本呼吸器学会肺生理専門委員会在宅呼吸ケア白書ワーキンググループ編:社団法人日本呼吸器学会 厚生労働省・呼吸不全に関する調査研究班。在宅呼吸ケア白書2010, p.3.

★3 一般社団法人日本産業・医療ガス協会:2021年在宅酸素療法機器加算に関する実態調査(アンケート調査)